



シンクや作業スペースは広く、コンロも6口。ゆったりと調理ができる。



指紋レスコーティング付きブラックステンレスの収納は、あらゆるものをしまえる大容量。



ギャラリーのような空間を目指して、廊下をなるべく減らした室内は、開放的な空間になっている。



高層階特有の建物の揺れにも耐えられるよう、特殊な樹脂素材を混ぜて塗ったスタッコ仕上げの壁と天井。繊細な模様が美しい。

# アートピースとしてのキッチン

## マイスデル

新しい家を作るなら、キッチンにもこだわりたい。  
空間に調和する特別なものがない——。  
家庭用フルオーダーキッチンブランド、MEISDEL (マイスデル)なら、  
確かな技術とノウハウで、細かな希望もかなえてくれる。

Photo Satoru Seki Text Mizuki Ono



幅400cm、奥行き120cm、高さ90cmの大きなキッチン。床面も水みがきの天然石で、足からも素材を楽しむことができる。

玄関を入ると目に入るのは、ナチュラルな白い壁と大きな窓が特徴的な空間。広々とした空間は開放的で、柔らかな光に満ちている。

「オーナーはとてもアートが好きなので、新しい部屋には作品をたくさん飾りたいとのことでした。それなら、この空間自体をアートギャラリーのようにしたい。そんな発想で設計を進めました」  
教えてくれたのは設計事務所・ワークシヨップミロの荻野佳宏氏だ。日本にも支社を持つ台湾の不動産事業家であるK氏が日本の拠点のひとつとして購入したこの部屋のフルリノベーションを荻野氏は任せられ、美しく造り変えた。

「当初、キッチンは小さくてもよいという話だったので、僕はキッチンこそこだわるべきだと思って大きな石のアイランドキッチンの提案をしたんです。というのも、ひとつのオブジェのような大きな石の塊——そこで調理ができれば、アーティスティックで面白い空間になりそうですよね？」 オーナーもその提案を喜んでくれたのですが、タイルなどではない、本物の天然石でキッチンを造れるメーカーは少ないですから。完成したのは、完全フルオーダーで、マニアックな要望も実現してくれるMEISDEL (マイスデル)のおかげです」

使用した石種は、ライアングレー。透明感あふれる白灰色の中に、複雑な表情を持つ天然石だ。「部屋に飾るアート作品が引き立つよう、無彩色で、それでいて作品に負けない力強

いパターンのある石を探しました」と荻野氏。同じくライアングレーの床からまるで立ち上がったようなキッチン。本みがきの天板で照明の光を受け止めて上品に輝きながらも、水みがきのサイドパネルが落ち着いた気品を保ち、確かにひとつのオブジェとして、彫刻的な迫力を醸し出している。

「ここまで石をふんだんに使ったキッチンは珍しいが、そんなキッチンの風格をよりいっそう引き立たせているのは背面の壁面収納の存在だろう。壁面から連続してスタッコ仕上げで塗られた扉。そこに取り付けられた古美色の真鍮取っ手を引けば、ビルトインされたワインセラーや冷蔵庫などの家電がのぞく。

「とにかくすべてのものを収納して扉の奥に隠せるようにしたい、というのがきれいな好きなオーナーのご希望でした。そのため、キッチンの引き出しも含め、収納は大容量です。壁面収納の内側にはブラックステンレスを使用し、扉を開ければ見えないところにもこだわりを。高品質なステンレスのおかげで、より全体が洗練された印象になりました。住環境としての機能面も考慮しつつ、アートピースとしても、空間としても、唯一無二のものになったと思います」

と、荻野氏は語る。  
せっかく新しい家を「一から造るのに、キッチンだけが既製品に見えてしまつては面白くない。それなら、部屋全体の世界観にマッチしたものを、フルオーダーで、マイスデルなら、その希望をかなえることができる。